



真・善・美

附中だより

令和4年7月10日

電話番号 255-0137

学校教育目標「よりよいものを求めてこだわり 高め合う生徒」について

教務主任 萩原 彰彦

『自主独立』の精神をもって、人間の最高の価値である『真善美』を求めていこうとする子どもを育てていくことが、長年に渡り本校の教育の底を脈々と流れてきました。校訓に示される教育理念について、私たち職員は共通理解を図り、めざす子どもたちの姿を共有しながら、教育活動を行っています。

(1) よりよいものを求めてこだわる姿

「学代になってよりよい学級にします」「よりよい体育祭を創ります」などのように、子どもたちの選挙の立候補紙面には「よりよい」という言葉がよく登場します。その後、級友から「あなたが思うよりよいとは具体的にどのようなものですか」という質問を受け、その子がそのものに抱いている価値や理想についてさらに語るようですが、4月当初各教室で見られます。子どもたち自身が「よりよくしたい、よりよくなりたい」と思うことは、子どもが主体的に伸びていくための第一歩と言えるでしょう。子どもたちが、よりよいものを求めていく過程では、多くの壁が存在します。個人によって「よりよいもの」の程度に差があることや、個人の「よりよいもの」が必ずしも仲間にとっての「よりよいもの」と一致するわけではないことなどに気づきます。そして、「よりよいもの」をつくるためには、仲間とのかかわりが欠かせないものであり、「誰にとってもよいもの」を考えることにこそ真の価値があることを見いだすでしょう。そのような姿が見られることを、私たち職員は期待しています。



「こだわり」とは、「仲間とのかかわりの中で見いだしたよりよい状態をめざす過程で、実現のためにその物事の大切にしたいことや譲れないことについて、深く思い入れること」だと私たちは考えます。安易に現状に満足したり、自分の考えをもたず体勢に流されたりするのは、こだわる姿とは言えません。また、仲間とのかかわりがなく、自分の考えや思いに固執するこだわりも、私たちが願う姿とは違います。疑問や納得できないことを追求したり、自分が大切にしていることを仲間語りかけながら、より深く思い入れたりする姿、現状に満足することなく、常に高みをめざして試行錯誤する姿こそ、私たちが願う「こだわる」姿です。そのようなこだわりを発するためには、仲間のこだわりを受け入れるような土壌、温かな雰囲気や人間関係の醸成、子どもが安心できる環境づくりが欠かせません。「よしやってみよう」というフォロワーや、建設的な意見を述べてくれるアドバイザーなど、子どもたちがさまざまな立場で、多くの仲間とこだわることで、誰にとってもよりよいものに近づくことができると考えています。

(2) 高め合う姿

私たちが願う子どもたち同士のかかわりは、「高め合う」かかわりです。ここ数年の本校の子どもたちのようすを見ると、自分の思いや考えを一方向的に発信し、論破しようとしたり、ぶつかり合ったりすることが減り、相手の考えに耳を傾けながら思いを重ね合わせようとする子どもの姿が多く見られるようになってきました。一方で、否定されることを恐れて主張できなかつたり、波風立てないように議論を避けたりする姿が課題として挙げられることもあります。仲間とよりよいものについて伝え合いながら、互いのこだわりを出し合いつつ、ぶつかり合ったり、遠回りをしたりしながら、少しずつ高め合っていくことにこそ、価値があるのではないのでしょうか。そのような経験を積み重ねていった子どもたちは、仲間とよりよいものを創っていこうと積極的に物事に取り組み、自分たちの手で創りあげることに自信をもつことでしょう。よりよいものを求める、こだわる、高め合うという一連の過程を経て、“人間の最高の価値”である「真善美」を求めるような子どもたちを育みたいと考えています。



(写真は先日行いました附中キャンプの準備と当日のようすです)